



川東道は、北国街道野尻宿より、針ノ木一舟岳一塩の入（一御所之入）一倉井一浅野と鳥居川の東を千曲川の立ヶ花渡しへ向かい、中野、小布施（六川）へと向かう北国街道の裏道。川東は、鳥居川の東の意ではなく、千曲川の東から由来していると考えます。幕府管轄の北国街道は、佐渡の金など荷物輸送は宿場ごとの荷の引継ぎが必要で、時間と経費が高んだことから、裏道である川東道が歩かれた。文化2年（1805年）に北国街道の三宿が江戸道中奉行に川東道を用いた荷物輸送を禁じるように訴えた。訴訟は文化10年（1813年）までかかる長期訴訟となった。そのころ江戸住まいであった柏原宿出身の俳人小林一茶は江戸詰めの柏原宿のサポートを行い、故郷の大事のために一肌脱いだ。また小林一茶は、一茶社中の門弟との交流において川東道を頻りに利用していた。

現在の小布施町にあった六川村（ろくがわむら）は、越後（柏崎）椎谷藩にて、寛政4年（1792）農民一揆（天明義民事件）が勃発した際に、幕府の裁定により、越後内の5千石を信濃国高井郡六川村へ藩地替えが行われ、六川に信濃分5千石の陣屋が設けられた。その後越後より六川村の往来に川東道が盛んに利用されたことが今も遺る道標が物語っている。



GoogleMAP
スマホ片手に場所を確認しながら歩けます